

報道関係者各位

表現の領域を超え「愛することは、つくること」をひもとくアートイベント 「LOVE LOVE LOVE LOVE 展 プレイベント」開催

2019年7月14日(日)～7月16日(火)／東京ミッドタウン・ホール A

日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS は、アートを通じて多様性の意義を伝える「LOVE LOVE LOVE LOVE 展プレイベント」を開催いたします。本展は、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年夏に、約2か月にわたって開催する展覧会「LOVE LOVE LOVE LOVE 展」のプレイベントで、翌年の展覧会に向け、国内外のさまざまな作家によるトークイベントやワークショップ、作品展示などを実施します。

トーク
イベント

作家、クリエイターなど、幅広いジャンルで活躍するゲストを迎え、トークイベントを開催。ここで生まれたアイデアやヒントを来夏の展覧会へつないでいきます。

※手話通訳／文字通訳あり

豪華 登壇者決定

■ 「愛についての 2、3 の断章」 7月15日(月・祝)13:00～14:30

小野正嗣(作家/早稲田大学文学学術院教授)

西 加奈子(作家)

小澤慶介(キュレーター/本展キュレーター)



1970年大分県生まれ。小説に『にぎやかな湾に背負われた船』、『夜よりも大きい』など、訳書にマリー・ンディアイ『ロジー・カルプ』、アキール・シャルマ『ファミリー・ライフ』などがある。2015年、『九年前の祈り』で第152回芥川賞受賞。

©講談社



1977年テヘラン生まれ。カイロ、大阪で育つ。2004年『あおい』でデビュー。2007年『通天閣』で織田作之助賞、2013年『ふくわらい』で河合隼雄物語賞、2015年『サラバ!』で直木賞受賞。



1971年生まれ。現代アートの学校「アート・スクール」主宰、インディペンデント・キュレーター。アーカスプロジェクトのディレクターなどを兼務。

第152回芥川賞受賞作家・小野正嗣氏、第152回直木賞受賞作家・西 加奈子氏を迎えて、「愛すること」をひもとく。お二人の作品や考えに触れながら、「愛」という大きなテーマを照らし出すいくつかの考えを探る。

■ 「ユニバーサルデザインをみんなで考えよう！」 7月14日(日)15:30～16:30

廣村正彰
(グラフィックデザイナー)

貝島桃代
(建築家/本展会場構成)

岡本 健
(グラフィックデザイナー/本展グラフィック)



1988年廣村デザイン事務所設立。美術館や商業施設などの CI、VI、サイン計画のほか、東京2020スポーツピクトグラムの開発チームにも参加。



1992年塚本由晴とアトリエ・ワン設立。住宅、公共建築などの設計に携わる傍ら、建築を軸とした都市の調査を行う。スイス連邦工科大学教授、筑波大学准教授。



2015年株式会社岡本健デザイン事務所設立。2016～2019年多摩美術大学統合デザイン学科非常勤講師、2019年よりグッドデザイン賞審査員。

多くの人にとってわかりやすく、魅力的なデザインとは？ 東京2020スポーツピクトグラムをはじめ、多数のサイン計画を手がけてきた廣村正彰氏を交え、グラフィックデザイン、そして建築の視点から、ユニバーサルデザインについて話し合う。

作品 展示

2020年の出展作家から16名の作品を展示。表現の領域や性別、世代を超えた作家によるドローイングやオブジェ、アニメーション、パフォーマンス映像など、計73作品を展示。

多彩なアート作品 計73点

ピーター・マクドナルド

1973年生まれ、ロンドン在住。イギリス人の父と日本人の母の間に生まれる。明るいい色使いで、大きな頭を持つ特徴的な人物を絵画に描く。国境や日常と非日常といった境界を超える作品を展開する。



《Zen Bubbles》2010年
Courtesy of the artist and GALLERY SIDE 2

井村ももか

1995年生まれ、滋賀県在住。作家の共同アトリエ・やまなみ工房で活動。好きな色の布にボタンを縫い付け、その布を重ね丸めたオブジェを制作。



《オレンジの玉》2014年
Courtesy of the artist and ATELIER YAMANAMI

＜その他出展作家＞ ※プロフィールは次々頁参照

岡元俊雄(滋賀県出身)／小林 覚(岩手県出身)／清水千秋(滋賀県出身)／砂連尾 理(大阪府出身)／杉浦 篤(埼玉県出身)／高田安規子・政子(東京都出身)／寺口さやか(広島県出身)／似里 力(岩手県出身)／西尾美也(奈良県出身)／納田裕加(埼玉県出身)／伏木庸平(東京都出身)／松井智恵(大阪府出身)／松本 力(東京都出身)／宮川佑理子(埼玉県出身)

公開 制作

工房集(埼玉県)、やまなみ工房(滋賀県)、るんぴにい美術館(岩手県)で活動する作家5名が参加し、ふだんアトリエで取り組んでいるように作品を制作。創作の場を間近に体感できる、貴重な体験。

創作の現場を体感



工房集

2002年にみぬま福祉会が開設。「集(しゅう)」と名付けられたこの工房には、ギャラリーやアトリエ、カフェ、ショップ、庭などがあり、作家だけではなく建築家やキュレーターらとも協働して、絵画や織り、木工、写真、書、紙粘土、ステンドグラスなど多岐にわたる表現方法を追求する。



やまなみ工房

1986年に滋賀県甲賀市に開設された、作家の共同アトリエ。陶芸や絵画、刺繍など、6つのグループに分かれて活動。2018年には、工房の作家に着目したドキュメンタリー映画「地蔵とリビドー」が全国各地で公開されるなど、多方面から注目を集める。



るんぴにい美術館

岩手県花巻市にある、アトリエが併設された小さな美術館。アートを通してボーダーレスな(境界のない)世界を垣間見せることを目指す。美術館2階のアトリエでは、作家たちが日々通って、創作活動に打ち込んでいる。

ワーク ショップ

東京 初出張!

山形県の“超”児童施設「キッズドームソライ」が東京に初出張。さまざまな素材や道具を自由に使って、ものづくりを体験できるワークショップを開催。オリジナルトートバッグや缶バッジなどもつくれ、つくった作品はすべて持ち帰れます。

※3日間開催、参加無料(事前申し込みなし) ※トートバッグは数量限定。



<作家と一緒に作品をつくれるワークショップも開催>

- 7月14日(日) 1部 11:00~12:00 / 2部 14:30~15:30 占部史人「航海図を描こう!」
みんなが想像する島をつなげて大きな航海図をつくります。
- 7月15日(月・祝) 14:30~16:00 西尾美也「工夫して着る服《くふうく》」
変わった服を自由にデザインし、実際に着てみることでたくさんの着方をつくり出します。

SORAI 「キッズドームソライ」

遊びを通して生きる力を育む児童遊戯施設として2018年11月山形県鶴岡市にオープン。大型遊具のある「アソビバ」と工作やアート体験ができる「ツクルバ」を自由に行き来して遊べます。対象は0歳~小学6年生。



インタラクション 体験

本展のメインビジュアルの、ふしぎなかたちのハート。体をつかって自分だけのハートを形づくれる体験展示。また、画像をSNSに投稿すると、本展オリジナルステッカーをプレゼント。

■ Twitterアカウント: @LOVE4EXHIBITION / Instagramアカウント: LOVE4EXHIBITION

オリジナル
ステッカープレゼント



※本展の内容は予告なく変更される場合があります。

「LOVE LOVE LOVE LOVE 展 プレイベント」開催概要

- 期間: 2019年7月14日(日)~7月16日(火) 10:00~19:00(最終日は17:00まで) ※入場は閉場の30分前まで
- 会場: 東京ミッドタウン・ホールA (東京都港区赤坂 9-7-2 ミッドタウン・イーストB1F)
- アクセス: 都営大江戸線「六本木駅」8番出口より直通
東京メトロ日比谷線「六本木駅」より地下通路直結
- 入場料: 無料
- 主催: 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS



2020年「LOVE LOVE LOVE LOVE 展」について

LOVE LOVE LOVE LOVE 展は、2020年夏、東京オリンピック・パラリンピックの開催時期にあわせて、お台場の船の科学館（東京国際クルーズターミナル駅）を会場に、約2ヵ月にわたり開催する大規模な展覧会です。国内外から、およそ40組の障害のあるアーティストと現代アーティストを迎え、ドローイング、オブジェ、アニメーション、パフォーマンス映像や体験型の作品など、ジャンルを超えたさまざまな表現からなる1500点以上の作品を紹介するほか、多彩なプログラムを展開します。

今回のプレイベントでは、ボランティアスタッフの募集も開始。開催までの1年間、これから出会う多くの方々とともに、展覧会をつくり上げていきます。1年後の夏にご期待ください。



日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS プロジェクトについて

日本財団は、多様な個性に寛容なインクルーシブな社会の実現を目指し、「障害者の芸術文化」の領域への支援を行っています。多様性の意義と価値を広く伝えることを目的に、既成概念にとらわれない多彩な展覧会などの企画、積極的かつ横断的な情報発信を通じて、2020年、そしてそれ以降の「障害者と芸術文化」の発展に向けて取り組んでいます。

- ・日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 企画展 ミュージアム・オブ・トゥギャザー（2017年10月13日（金）～31日（火））
- ・日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 2020 ミュージアム・オブ・トゥギャザー サーカス（2018年9月13日（木）～17日（月・祝））
- ・LOVE LOVE LOVE LOVE 展 プレイベント（2019年7月14日（日）～7月16日（火））
- ・LOVE LOVE LOVE LOVE 展（2020年夏）



【リリースに関する報道関係の方からのお問合せ先】

「LOVE LOVE LOVE LOVE 展 プレイベント」広報事務局（平日 10:00～17:00）

担当：倉澤・三樹・鎌倉

住所：東京都千代田区紀尾井町 3-23

TEL：03-3263-5622 / FAX：03-3263-5623 / MAIL：press@lovelovelove.jp

ご取材希望の際は、添付の取材申込書を FAX もしくはメールでお送り下さい。

【出展作家プロフィール】

井村ももか

1995年生まれ、滋賀県在住。やまなみ工房で活動。好きな色の布にボタンを縫い付け、その布を重ね丸めたオブジェを制作。



《みどりの玉》2014年
Courtesy of the artist and ATELIER YAMANAMI

岡元俊雄

1978年生まれ、滋賀県在住。やまなみ工房所属。寝転がり肩肘付けて描く独特の方法で、墨汁と割り箸を使い、ダイナミックにドローイングを描く。



《女の人》2015年
Courtesy of the artist and ATELIER YAMANAMI

小林 覚

1989年生まれ、岩手県在住。るんぴにい美術館内の共同アトリエで活動。養護学校(当時)在籍時に書きはじめた独創的な文字。教師陣は一時修正を試みたが、それを魅力的な造形表現と捉え直し、小林の創作ははじめた。気に入った曲の歌詞や言葉を独自に変化させて画面を構成した絵を制作。



《埴生の宿(花はあるじ鳥は友)》2009年
Courtesy of the artist and Lumbini Art Museum

清水千秋

1967年生まれ、滋賀県在住。やまなみ工房所属。鮮やかな糸を用い、気に入った人物の絵柄を縫いこんだ刺繍作品を制作。「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 2020 ミュージアム・オブ・トゥギャザー サーカス」(渋谷ヒカリエ)では、彼女の作品がメインビジュアルになった。



《すっぽん祭り》2010年
Courtesy of the artist and ATELIER YAMANAMI

砂連尾 理

1965年生まれ、東京都在住。ダンサー・振付家。《とつとつダンス part.2-愛のレッスン》は特別養護老人ホームでのワークショップを経て制作された舞台の記録映像。障害のある人や高齢者、妊婦など、ダンス経験のない人たちなどのワークショップに積極的に取り組む。



撮影:森 真理子

《とつとつダンス part.2-愛のレッスン》2014年

杉浦 篤

1970年生まれ、埼玉県在住。工房集所属。20年以上にわたり、旅行風景や家族とのスナップ写真を繰り返し撫でることで作品を生み出している。「すごいぞ、これは！」(埼玉県立近代美術館)などで発表を行い、近年では海外からも注目を集める。



《Untitled》1997年-
Courtesy of the artist and KOBOSYU

高田安規子・政子

1978年生まれ、東京都在住。一卵性双生児の姉妹で制作活動をするユニット。身近なものを素材に、縮尺や時間を自由に組み替えて彫刻やインスタレーションを創作。作品を通じ、鑑る者の視点や、時間感覚などを問い返す。



《Vase》2017年

寺口さやか

1972年生まれ、広島県在住。特別支援学校で解剖学や臨床医学を教えるため、人体模型の教材を自ら制作し、使用している。可動性のある模型は、生徒が実際に触ることで各器官の関係やスケール感を確かめられるようになっている。



撮影：木奥恵三

《眼球模型》2016年

似里 力

1968年生まれ、岩手県在住。るんぴにい美術館内の共同アトリエで活動。ある時、アトリエでの作業中、絡まった糸を切って結び直す所作を気に入り、それ以降、生成りの綿糸を切って結び直すことでできあがる糸玉作品の制作に専念。



《無題》(部分) 年不詳

Courtesy of the artist and Lumbini Art Museum

西尾美也

1982年生まれ、奈良県在住。装いの行為とコミュニケーションの関係性に着目、国内外で市民とともにプロジェクトを展開する。近年の主な活動に、大阪・西成の女性たちとともに立ち上げたファッションブランド《NISHINARI YOSHIO》の設立などがある。



《Self Select #65(Nairobi)》2009年

納田裕加

1966年生まれ、埼玉県在住。工房集で活動。織り、絵画、刺繍などの手法で制作する納田。本展では、毛糸を糸巻きの芯に巻きつけたオブジェ《のうだま》を展示。



《のうだま》2017年

Courtesy of the artist and KOBO-SYU

伏木庸平

1985年生まれ、東京都在住。布と針と糸で作品を制作。2014年「田中忠三郎が伝える精神展」(十和田市現代美術館)から、アートの領域においても活動の幅を広げている。



《言葉はわからなくても、この歌は私の胸を膨らませる》(部分) 2018-2019年

ピーター・マクドナルド

1973年生まれ、ロンドン在住。イギリス人の父と日本人の母の間に生まれる。明るい色使いで、大きな頭を持つ特徴的な人物を絵画に描く。国境や日常と非日常といった境界を超える作品を展開する。



《Hypnotic Rock Studio》2008年
Courtesy of the artist and GALLERY SIDE 2

松井智恵

1960年生まれ、大阪府在住。映像から絵画、インスタレーションまで幅広い作品を制作。自身の身体を通して自伝的・触覚的な感覚を喚起する作品は、国内外で高く評価される。2011年9月3日から、一日一枚ドローイングを描き SNSへ投稿する《一枚さん》を制作。



《一枚さん》2019年
Courtesy of the artist and MEM

松本 力

1967年生まれ、東京都在住。コマずつ手描きのドローイングを撮影してつないだアニメーションで、独自の映像表現を目指す。手製の映像装置「絵巻物マシーン」を用い、学校や美術館、滞在先の国や地域でワークショップを行う。



《Night and Day Watch / black, blue, red and violet》2014年
Courtesy of the artist and TAKE NINAGAWA

宮川佑理子

1987年生まれ、埼玉県在住。工房集所属。両手に絵の具をつけ、紙の上を平泳ぎするように、全身を使って作品を制作。「ポコラート全国公募 vol.2受賞者展」(アーツ千代田3331)で大木裕之賞を受賞。



《Untitled》2013年
Courtesy of the artist and KOBO-SYU